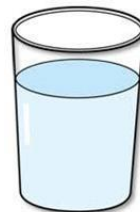




## コップの水

～ 願いをかなえるために ～



子どもたちにはいろいろな願いがあります。「サッカー選手になりたい」「保育士になりたい」「算数で100点をとりたい」「ダンスがうまくなりたい」「絵やマンガがうまくなりたい」「歌がうまくなりたい」「よい家を建てる大工さんになりたい」などなど。もちろん大人になっても、様々な願いがあります。

願いをかなえるためには、発達の途中で「ひと休み」があることを知っておくべきであると思います。大人は経験上このことを知っている場合が多いですが、子どもはそうとも限りません。

毎日毎日努力を続けることが大切です。どの人も口にする事です。しかし、努力しても成果が目に見えない時があります。そんな時、人はあせります。落ち込みます。時には「もうだめだ」とあきらめてしまう場合もあります。このような状況において、努力と発達の関係を知っていれば、あきらめたりせず努力を続けることができると思います。また周囲も励ますことができます。

努力を続けると、力が蓄えられます。でも、その成果はすぐには表れないことが多いです。やがて、毎日貯金をしていたのをドンといっぺんに返してもらうように、発達はおとずれます。例えば、コップに少しずつ水がたまっていき、ある日あふれ出すのも同じです。発達、上達とはそういうものだと思います。その前に、なかなか成果が出ない時が「壁」です。コップに水がたまっている段階では、目に見える大きな変化はありません。だからと言って、ここであきらめてはいけません。もう少し努力を積み重ねれば、コップの上まで水がたまって、さらに努力という水を注ぐことでやっと水があふれ出す、つまり突然に成果がやってくる時がおとずれるからです。

今月末から学校水泳が始まります。水泳の練習をしている時、はじめは長い距離を泳げない子どもが、1回練習するたびに例えば1mずつ距離を伸ばすかというところではありません。何度と練習を積み重ねていくことで、ある日頑張ってみたら突然長い距離を泳げるようになったということがあります。

子どもたちの様子を見ていて、一生懸命頑張っているのになかなか上達せず、成果が出ず、「なんでできないのか」「いくらやってもだめだ」など、なぜかという思いが高じ、つい叱ってしまったり、なじってしまったたりすることもあると思います。私もそうでした。

でも、そんな時こそ、勇気づけ、励ましが必要なのだと思います。

努力を続けている限り、必ず上達の時がおとずれます。人によっておとずれる速さや程度の違いはあります。でも自分の願いをかなえるために、どうか努力を続けること、途中で壁はやってこくこともあるがコップから水があふれるように上達した成果がやってくるということを、子どもたちに励ましてあげてください。どうかよろしくお願いします。

## 雑感

気持ちのよい挨拶や返事ができるよう、年度当初から取り組んでいます。子どもたちの様子を見てみると、例えば給食室で並んで挨拶する時、児童朝会での挨拶をする時などは、とても明るく大きな声で挨拶しています。地域の方からもずいぶん挨拶できる子どもが多くなったと聞いており、うれしく思っています。さらに、児童朝会でも話しましたが、人より先に挨拶ができるようになってほしいと思っています。「挨拶上手になって」と言いました。人より先に進んで挨拶、学校でも取り組んでいきますので、保護者の皆さまもどうかご協力願います。